

近隣自治会合同防災訓練

(平成26年10月5日)

平成26年10月5日(日)市と連携した、美田近隣自治会合同防災訓練が実施されました。

一昨年と同様、「八木北小学校への避難及び避難所開設訓練」ですが、今年は、市内5自治会(美田・駒木・十太夫・東映団地・東初石4丁目)と柏市4自治会(柏ハイライズ・シティパラス柏・西柏台第2・西柏台明光)の市境を超えた9自治会合同による訓練となりました。

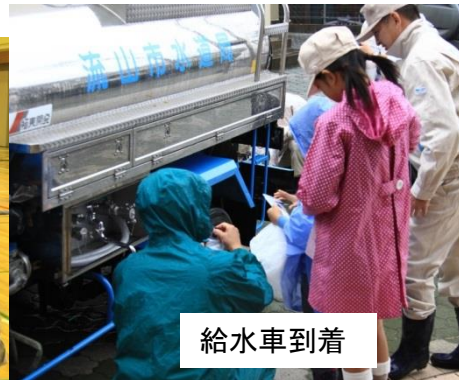
この日は台風18号の影響で雨天の中での訓練となり、シナリオにない場面も多々ありましたが、市や学校、京和ガス、役員・ボランティア方の協力で、実際の災害時さながらの臨場感に溢れた訓練となりました。

(安心町づくり部 久野)

雨の中、避難する柏ハイライズ



東初石4丁目自治会



給水車到着

当日は約600名の参加者



9班

八木北小通路が災害食配給所に使われた



要援護者も合羽を来て避難



救援物資届く

防災訓練参加者の感想

高校生(美田在住)

今回の防災訓練で最も印象に残ったのは、炊き出しの豚汁を校舎の中で食べたことです。狭い廊下が、「被災者」で一杯になり、皆それこそ肩を寄せ合って食べている状況でした。

僕も小学生の下駄箱に豚汁のカップや炊き出し米を置いて、立ったまま食べましたが、東日本大震災のときの避難所でも、同様の光景が見られたのではないかと考えさせられました。

きっと大震災の被災者も、想定外の災害が現実のものとなり、着の身着のまま学校などの建物に逃げ込んできたのでしょう。

その混乱と無秩序のなかで避難所を開設し、運営していく人たちの努力は大変なものだったろうと思います。

もし私たちの暮す地域が大災害に見舞われたとき食糧はどうするのだろう、誰が避難所を機能させていくのだろうと不安になりました。だからこそ平時に、避難所での役割分担や行政との連携などを確認しておくことは大切です。

今日の訓練は、折しも台風接近による風雨(プチ災害?)のもと行われたので、より臨場感のある体験ができ災害への備えを考える機会になりました。

避難所開設・運営訓練のためにご尽力くださったみなさまに感謝いたします。

